

近藤さん理論談話会 議事録

羽藤先生) 現在と将来で SN の影響を入れるとしたら、現在だけ入れて将来は入れないと言っていたが、「周りの人がどうするか？」は内生性がある。

羽藤先生) 出口が混むって思うよね。出だしで最初に逃げられている人はいいけど、それ以外はたくさん死んでしまうよね。煙が出てるけど大丈夫だと思った人がいるかどうか
コンテキストが時間の中で変わってくると捉えることはできるけど。

近藤さん) 避難しやすさの変数としてリスク認知が入っている。

羽藤先生) リスク認知を、背景にある潜在的な変数によって変化するものとみるか？

松永) Personal group (p.21) は何？

近藤さん) 書いてないので分からない

羽藤先生) チケットを同時に買った人なのでは？

松永) Personal group は近くにいてから、close group と関連するのでは？

松永) Personal group は一緒に行動するのでは？

羽藤先生) まあそうだよね

Group 討議「行動モデルにどう組み込むのか？認知リスク」

江東区 Group) 避難所とのネットワークと時間の 3 次元の中での行動が、新しいキューが入ってきたりする中で逐次的に変わっていくイメージがあります。一旦避難した後にまた戻ってくるなど。

近藤さん) イメージできる

浪江 Group 奥田さん) スライド p.6 の 3 番「エージェントの認知リスクレベルによって状態が、状態によって行動が決定」とあるが、この論文において行動と状態はどう分かれているのか？

近藤さん) おそらく、状態は潜在的な状態だから行動を知りたい中で、状態は観測できない。状態は、心の中で募るもの。思い。

浪江 Group 加藤) Key factor が認知リスクに限定されているが、車を持っているか、場内アナウンスの様子などによっても変化する。認知リスク以外の状況を入れて研究した事例はあるか？

近藤さん) 環境変数が一緒でも、違うように受け取る人がいる。ただ、車を持っているか、ケイパビリティによって行動が変わってくるとは思う。

近藤さん) 火災だとリスク以上のものをあまり考えなくていいが、豪雨とかだと避難先に長く滞在しなくてはならないことを避難時に考えると思う。

近藤さん) Investigating みたいな状態を、津波のような災害からの避難で考えるのは難しい

気がする

羽藤先生) Capabilityの話はよくある。早めに情報を取って避難をしないと、車椅子の人は避難できない。災害時に、飛行機のような優先搭乗のルールはない。

近藤さん) 障がい者がいるから早めに避難した事例がある(土石流)

羽藤先生) 避難している最中のリスクもあるので難しい。ただ、リスクと制約は違うもの。時間変化する中でそれをどうこうするのは重要なトピックス

D以上&近藤さん Group) 歩行速度、先導者(近藤さん or 消防車、ただの人 or 秀三さん)による違いを見る。Normal状態では push 情報しか得られないが、Investigation状態では pull 情報も得られる。

最後にひとこと

手代木) この論文は定式化するときいろんな条件を入れていたので、こういうふうにいるんな情報を入れるんだなと思いました。

近藤さん) データからやってくと、実証分析でやってない変数が存在しないが、理論化から先にやってくと、実証分析で入ってない変数が入ってくるんだなと思いました。